

令和元年8月8日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示している。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	いもち病 (穂いもち)	並	7月下旬発生量：並 (上位2葉葉いもち) 気象予報：気温高(-) 降水量並	
	紋枯病	やや多	7月下旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	
	ごま葉枯病	やや少	7月下旬発生量：少(-) 気象予報：気温高(+)	・ 発生が多い場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	斑点米カメムシ類 大型のカメムシ類	並	7月下旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並	・ 多発ほ場では、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 ・ 令和元年度病害虫発生予報第4号も参考にする。
カスミカメムシ類	並	7月下旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並		
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	8月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並	・ 早期発見に努め、多発ほ場では収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	イモキバガ (イモコガ)	やや少	8月上旬発生量：少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並	
ラッカセイ	褐斑病	並	8月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温高(-) 降水量並	・ 収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	白絹病	並	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 発生初期から薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	並	8月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌施用と併せて、乾燥時にも即効性が期待できる茎葉散布剤により、薬剤防除する。
	ネギハモグリバエ	やや少	8月上旬発生量：少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	
サトイモ	アブラムシ類	やや多	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 葉裏に発生が多いので、薬剤散布は、葉裏にも十分かかるようにいねいに行う。
	ハダニ類	並	8月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	8月上旬発生量 サツマイモ：並[発生なし] 夏秋トマト：並[発生なし] 秋冬ネギ：並 サトイモ：並 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 ・ 幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。 ・ P4「これから注意を要する病害虫」を参照。
ナシ	シンクイムシ類	並	7月下旬発生量：並 気象予報：気温高（+）	・ 収穫時期を迎えているので、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	ハマキムシ類	並	7月下旬発生量：並 気象予報：気温高（+）	
	ハダニ類	やや多	7月下旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 収穫時期を迎えているので、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 ・ 薬剤散布は発育枝先端まで十分かかるよう、丁寧に行う。 ・ 下草を除草すると、ハダニがナシの樹に移動するので注意する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	ミカンハダニ	少	7月下旬発生量：少（－） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 8月以降の発生は果実にも寄生し、外観品質を損なうので園内を見回り発生に注意する。
果樹共通	カメムシ類	並	7月下旬発生量 ナシ：やや多 カンキツ：並 7月予察灯誘殺数 ：並 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 多目的防災網（9mmクロス）や防虫網（4mm目）などで園全体を被覆する。 カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。

発生量において「並[発生なし]」とあるのは、過去10年間発生がないことを示す。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウは、中齢（写真1）以降の幼虫で薬剤の効果が低下しやすい「難防除害虫」の一種で、年により異常に多発生する。幼虫がエサとする植物の種類は極めて多く、「畑作物」「野菜類」「花き類」だけでなく「果樹」にまで被害を及ぼすこともある。

8月上旬の巡回調査によると、「秋冬ネギ」「夏秋トマト」「サツマイモ」「サトイモ」のいずれでも幼虫寄生や被害は確認されなかった。

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並と予報されていることから、向こう1か月のハスモンヨトウの発生は平年並と予想される。

ハスモンヨトウは、例年8月以降に発生量が増加し、多発生すると、収量減や品質低下につながることもあるので、発生初期からの防除を心がける。

<形態と被害のようす>

卵は、数百個が一塊となって葉に産み付けられ、卵塊の表面は「雌成虫の鱗毛」によって覆われる（写真2）。

2齢幼虫までは斑紋がほとんど現れない。しかし、3齢幼虫以降は、第1腹環節の横に「1対の黒く明瞭な斑紋」が現れる（図）。成長した幼虫の体色は、灰緑暗色・暗褐色など変化に富む。

成虫は、前翅に「斜めに交差して走る数条の淡褐色の縞模様」がある（写真3）。

ふ化幼虫は、集団で表皮を残して食害する。

3齢幼虫以降は、分散し、食害量が増加するので穴開きの被害となる。多発時には、太い葉脈と中肋のみが残るような、畑一面が丸坊主となる激しい被害となる。

<防除法>

- 1 常発地では、フェロモントラップを設置するなど、「発生消長の早期把握」に努める。
- 2 早期発見に努め、卵塊や分散前の若齢幼虫を捕殺する。
- 3 施設等では、開口部に防虫網を設置し、成虫の侵入を防止する。
- 4 薬剤による防除は、中齢幼虫以降になると薬剤の効果が低下するため、できるだけ若齢幼虫のうちに行う。
(1) 周辺の作物での発生状況にも注意し、発生初期の防除を徹底する。



写真1 中齢幼虫



写真2 卵塊

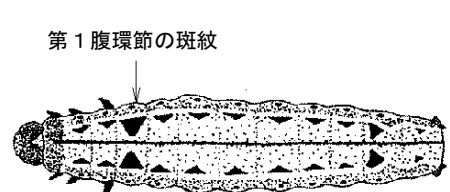


図 中齢幼虫の形態



写真3 成虫

- (2) 温度が高いため作物の生育が早いことから、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。
 - (3) 夜間活動し、昼間は下葉や葉裏などにひそんでいるので、薬剤散布はていねいに行う。
- 5 成虫の飛来を抑制するために、夜間に黄色灯を点灯し、ほ場全面を明るく保つ方法がある。
この場合、ほ場の明期が延長されることによって、作物の生長に影響を及ぼすことがあるので注意する。
- 6 性フェロモン剤を利用した防除では、「交信かく乱法」により交尾率を下げ、産卵数を減少させることが期待できる。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稲・夏秋トマト・果樹：7月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：8月上旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.00	0.01	0.03	
	紋枯病	発病度	1.06	0.59	1.44	
	縞葉枯病	発病株率(%)	0.42	0.34	0.57	
	ごま葉枯病	発病度	0.40	1.20	2.34	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.01	0.80	0.09	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.01	0.00	
	イネヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.01	0.00	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.00	0.03	0.00	
	コブノメイガ	上位2葉被害株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.04	4.02	2.02	
	トビイロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.01	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	18.85	19.34	50.70	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	17.87	15.34	23.19	
	コバネイナゴ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	2.54	2.03	2.50	
	ササキリ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.60	2.22	4.97	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.59	0.76	0.33	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.24	0.18	0.12	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.13	0.08	0.26	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.09	0.03	0.03	
アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.12	0.12	0.28		
アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.59	1.07	1.47		
ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.01	0.00	0.07		
サツマイモ (印旛, 香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.00	0.23	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	1.60	5.96	3.60	
	ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	0.00	0.00	0.00	
ラッカセイ (千葉, 君津)	そうか病	発病度	0.00	0.02	0.00	
	褐斑病	発病度	15.55	8.25	8.45	
	黒渋病	発病度	0.00	0.18	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	0.00	1.07	3.20	
サトイモ (印旛, 香取, 君津)	汚斑病	発病葉率(%)	0.50	0.44	0.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	15.41	18.06	13.20	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.08	0.80	
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	2.45	17.11	11.80	
秋冬ネギ (長生, 山武)	黒斑病	発病度	1.98	2.46	0.10	
	さび病	発病度	1.25	0.17	0.00	
	白絹病	発病株率	0.00	0.16	0.40	
	ネギアザミウマ	被害度	10.70	25.75	32.20	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.28	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	1.58	5.69	2.20	
夏秋トマト(印旛)	タバコガ類	被害株率(%)	0.00	0.08	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.74	2.24	0.68	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.01	0.00	
	ハマキムシ類	被害果率(%)	0.00	0.01	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.55	0.48	1.37	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	1.05	3.43	1.26	
	ニセナシサビダニ	成若虫被害新梢率(%)	0.00	1.52	0.00	サビ症状
	カメムシ類	被害果率(%)	0.08	0.05	0.00	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.00	0.18	0.00	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.02	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.03	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	0.00	15.78	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.50	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.44	0.00	

トラップ月間誘殺数 (7月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数 (頭)			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉, 香取, 安房	72.0	90.7	52.0	
	セジロウンカ	"	5.7	8.5	1.7	
	トビイロウンカ	"	0.7	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	"	34.7	5.1	6.3	
	ツマグロヨコバイ	"	727.3	131.1	196.0	
	フタオビコヤガ	"	19.0	26.8	36.3	
	イネヨトウ	"	3.0	4.7	7.7	
	ニカメイガ	"	5.7	1.2	8.3	
	コブノメイガ	"	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	"	4.3	13.6	3.0	
	クモヘリカメムシ	"	2.3	1.3	1.7	
	ホソハリカメムシ	"	0.3	1.0	1.7	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	"	18.7	50.6	115.0	
	アカスジカスミカメ	"	78.3	219.7	295.0	
	ミナミアオカメムシ	"	4.3	3.0	15.0	
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	"	5.7	4.2	6.0	
	クサギカメムシ	"	2.0	1.8	4.3	
	ツヤアオカメムシ	"	0.0	0.6	1.3	
	アオクサカメムシ	"	0.7	1.1	3.3	
	イチモンジカメムシ	"	1.0	1.7	1.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	"	25.7	37.7	48.3	
	オオビロウドコガネ	"	1.3	6.0	3.0	
	ヒメコガネ	"	1.3	2.7	10.0	
	ドウガネブイブイ	"	3.3	4.2	7.3	
	オオクロコガネ	"	3.3	22.9	25.7	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	5.0	11.0	17.0	
	クサギカメムシ	"	2.0	9.8	5.0	
	ツヤアオカメムシ	"	0.0	6.4	5.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛, 香取	-	-	91.3	
	ヒメコガネ	印旛, 香取	-	-	758.4	
	コナガ	海匝, 安房	-	-	51.2	
	ハスモンヨトウ	県内全域	-	-	211.6	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	-	-	11.4	
	オオタバコガ	県内全域	-	-	55.6	
	タバコガ	県内全域	-	-	18.2	
	ネギコガ	東葛, 香取, 長生	-	-	182.0	
	ナシヒメシンクイ	東葛, 印旛, 香取	-	-	18.1	
	モモシンクイガ	東葛, 印旛, 香取	-	-	0.0	
	チャハマキ	印旛, 香取	-	-	7.2	
	チャノコカクモンハマキ	印旛, 香取	-	-	12.9	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	千葉, 印旛, 香取, 安房	-	-	124.3	
	ツヤアオカメムシ	"	-	-	0.8	
	クサギカメムシ	"	-	-	2.5	
	マルボンヒラタヤドリバエ (天敵)	"	-	-	3.4	

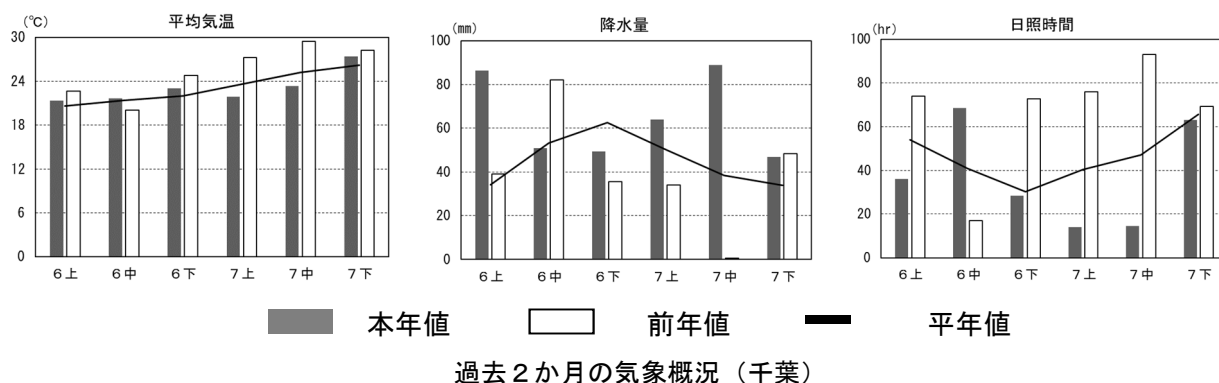
○気象予報

8月1日気象庁地球環境・海洋部発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	30	40	30
日照時間	20	40	40

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(8月9日～9月8日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	26.2	24.9	25.9
降水量(mm)	164.6	140.8	156.1
日照時間(hr)	195.7	228.6	224.7



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は9月11日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp